

この地域に昔から伝わる親孝行の物語を 独自の公演スタイルで次世代へ。

かげえながお
影絵NAGAO 北九州市



物語に感動したことが、
影絵上演のきっかけに。

「目が不自由になった母を
思い、息子の吉兵衛は合馬川
に入つて願を掛けました。その
甲斐があつたのか、母の視力は
回復しましたが、今度は足が
不自由に。吉兵衛は、その母を
背負つて伊勢参りへ…」。

小倉南区には、300年前
から伝わる「孝子吉兵衛物
語（こうしきちべえもの）がた
り」という民話があります。

生涯学習講座でこの民話に
感銘を受けた仲間20名が、平
成21年、「孝子吉兵衛物語を、

地域に根付かせたい」という
思いから「影絵NAGAO」
を結成。影絵とシナリオ、さら
に衣装を作つて劇を公演する
活動を開始しました。

結成以来、「影絵NAGAO」
は小学校や福祉施設で公
演活動を行っています。平成
23年には、地域のボランティア
活動を推進する「北九州ボラ
ンティア顕彰委員会」の表彰
を受けました。この表彰によ
り、福祉教育関係者からの評
価が高まり、現在では多くの
上演依頼を受けています。

休演にしたいくない思いが
一人全役という体制に。

「影絵NAGAO」の演出方
法は独特で、影絵を上演しな
がら、その前で役者たちが芝
居をするというものです。影
絵の人形を動かす役もあれ
ば、芝居を演じる役もありま
す。さらに投影、音響、照明な
ど多くの役割がありますが、

全員が全ての役割をこなせる
ので、誰が休んでも上演でき
る体制を整えています。

影絵だけでなく口説き踊
りやマジックも交えながらの
公演は、福祉施設の高齢者の
方々や地元の小学生たちを楽
ませていきます。

「ある施設で公演した時、車
椅子に座っていた方が感謝を
伝えようと立ち上がったんで
す。スタッフの方も驚いていた
んですが、私たちも嬉しかった
ですね」と、代表の貝塚さんは
当時を振り返ります。

現在の公演頻度は、1か月
に4回、年間で約50回。毎月、
公演活動終了時にミーティン
グを開いて意見を出し合い、
それをもとに常により質の高
い上演を目指しています。

300年前の言葉を盛
り込んだ演出構想も。

「影絵NAGAO」の活動
は、地域の歴史や文化を次世

代に継承していく役割を担っ
ています。また、高齢者の仲間
づくり、生きがいづくりを支
えています。

子供たちの教育を支援し、
施設にいる高齢者を元気づ
ける活動は、地域の文化保存
継承活動を活気づけている
と大きな期待が寄せられてい
ます。

今後に向けては、地域の文
化をさらに継承したいと思
いから、現在の演出をより掘
り下げ、物語の舞台となった
300年前の言葉を盛り込ん
でいこうとしています。

